

発行日 令和6年3月1日

発行者 島根県保育協議会

編集者 総務広報委員会

第64回島根県保育研究大会

記念講演 「こどもまんなか」保育の充実のために ~子ども・保育者・保護者がワクワクする保育へ~

講師：玉川大学教育学部

教授 大豆生田 啓友 氏

子どもによりそうこと、育ちの環境をつくること、主体性を引き出すこと…。「保育とは何か？」という問いには、保育者によって、あるいは切り口によってさまざまな答えが生まれます。

令和5年10月に開催された『第64回島根県保育研究大会』のテーマは「すべての人が子どもと子育てにかかわりを持つ社会の実現をめざして」。記念講演でご登壇いただいた大豆生田啓友先生（玉川大学教授）には、そのお話の中から「ワクワクする保育」についてたくさんのヒントをいただきました。



・「困ったちゃん」の中にも、その子の「よさ」をいかに見つけ出すか。その子の思いを理解しようとするのが、安心感や信頼感（養護）につながる。

・その子の好きなこと（興味関心）を発見し、それを保育者が大切にしていふさわしい環境を用意することで、その子のよさはもっと広がっていく。

・誰かの面白い姿が魅力的に見えるから、他の子もそれを真似したいという広がり、育ち合いが起る。

○保育の質を高めている園の特徴

① 子ども主体の遊び（協同的な活動）を重視している。

- ② 保育者が、子どもの姿を「振り返り」、「語り合う」風土がある。
- ③ 職員同士の関係性（同僚性）が良好である。
- ④ ドキュメンテーションなどで、子どもや保育の姿を保護者に伝えるなど、家庭や地域に開かれている。
- ⑤ 園長や副園長、主任などのリーダーおよび中堅層などが中心となって、保育を変えてきた経緯がある。

○「遊び」から「遊び込む」に変えていく子どもたちの力

園だからこそできる、誰かの面白いが、周りを巻き込んで広がっていくこと。子どものワクワクが保育者のワクワクにつながっていくこと。そしてそれが地域全体のワクワクになっていくこと。

大豆生田先生は、ワクワクが広がっていくような保育を大切にしてほしいというメッセージを私たちに伝えてくださいました。

総務広報委員会担当副会長／国頭 正久



島根県保育研究大会 in 益田

主題「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」

全体講評講師：島根大学 理事・副学長 肥後 功一 氏



第1分科会

提案者 出雲市保育協議会

助言者 島根大学 教授／原 広治 氏

つながる瞬間 深まる理解 広がる関わり
～遊び込みに向かう姿から 目には見えない子どもの心を探って～

出雲市の保育士部会の研究グループ8園が平成30年度（2018年度）より6年間をかけ、気になる子どもの姿から特に「遊び込めない子どもの姿」に着目し「遊び込むって何？」「どうやってら遊び込むようになる？」「遊び込むとはどんな姿なのか」「そのためにはどんなことが必要なのか」に焦点をあてた共同研究でした。お互いに保育を語り合い、学びを深める方法としてエピソード記述を活用した話し合いや、集められた沢山の意見をKJ法で効率的に整理すること、魚の骨図と呼ばれる、結果に向かうための要因を骨に表し、魚の頭に解決したい物（結果）を書いて図式化する等、その手法にも様々な工夫がなされていました。会場からは、コロナ禍の中8園の保育者が6年間をかけて公開保育や丁寧な協議を重ね取り組まれた研究に先ずは慰労と敬意の声が寄せられました。最後に数年間の研究の前後ではどのように変わりましたかという問いかけに「～になって欲しい」「〇〇が良い保育」と大人の願いばかりを伝える保育者主導の保育ではなく、子どもの思いや意欲など内面を捉え子どもの気持ちに合わせる事で保育そのものが楽しくなったという発表者の言葉が印象的でした。



総務広報委員長／櫻井 由香里

第2分科会

提案者 雲南保育協議会

助言者 島根県立大学 教授／梶谷 朱美 氏

輝けいのち！共に育ちあう保育の創造
～“やってみよう”の気持ちを育てる保育者のかかわりを見つめて～

第2分科会は、雲南保育協議会の発表について学びを深めました。はじめの1時間は、約140名の保育者が14グループに分かれて、事例①と事例②についてKJ法を用いてグループ討議をしました。どのグループも和気あいあいとした雰囲気の中で、活発な意見交換が行われていました。グループ発表では、一つの事例から様々な読み取り方や捉え方があり、多面的な見方を他の保育者と伝え合うことができました。

助言者の梶谷先生の講評では、事例①は、子どもの発達をプロセスとして捉えている事例の典型であり「できる・できない」では発達を捉えられない。事例②は、4歳児らしい共同性・他者と同じ場所で遊ぶ中で、心と身体の発達の変容を促す保育を創る事例である。子どもの「やってみよう」という気持ちを育てるためには①子どもを知る②適切な保育者の関わり③信頼・尊重される関係づくりの3つの視点のサイクルが大切である。また、KJ法を用いたグループ討議で経験した他者を否定しない、認め合う＝受け入れてもらえるという安心感は保育者にも子どもにも大切なことであると、具体的にわかりやすく話をいただきました。

このように第2分科会では、研究の進め方や保育者の研修のあり方、雲南市の保幼小中一貫教育にもふれられ幼小連携のあり方など、多くのことを学ぶことができました。

総務広報委員／須田 こずえ



第3分科会

提案者 江津市保育研究会

助言者 島根県栄養士会 会長／名和田 清子 氏

食を通じて育む豊かな心 ～一緒に食べるとおいしいね！たのしいね！～

江津市保育研究会は、「食を通じて育む豊かな心」と題し、「味覚を育てる」「共食の推進」の2本立てで発表されました。分科会では「だレクイズ」での子どもたちの様子やつぶやきなど取り組み過程を具体的に話されたり、共食の動画を見せていただいたりしました。だしについて子どもたちに聞く場面では「子どもの表現を待つことが大事」というコメントがあり、食事だけに限らず大切な心構えだと感じました。発表を終え、「共食を行う上で大変さなどなかったか・保育士との連携はどのようにしたのか」との質問に、工夫したことや苦労したことを話された後「共食には楽しさや子どもの心の育ちが見られます。大変さも多少ありますが職員同士の協力があれば大丈夫です。共食はおススメです！」と力強く応えられていたのが印象的でした。

後半は、助言者の名和田清子先生より『食育に関する理解と食育計画の作成と活用』というテーマで講演していただきました。同じ価値観になりがちで多様な文化を取り入れにくくなっている今、環境的にできなくなったことに対してどうやったらできるようになるかを考えていくことが大切と話され、江津市の取り組みにも通じる所がありました。食育発表を通して、調理担当者と保育士の連携が子どもの育ちを豊かにすることを再認識することができました。



総務広報副委員長／福富 由希子

人材育成分科会

提案者 人材育成プロジェクト

ここでしか聞けない若手のホンネ

参加対象者を施設長、主任保育士といった育成側に限定した人材育成分科会では、「ここでしか聞けない若手のホンネ」という分科会のタイトルが示すように、若手職員の中でも特に「Z世代」と呼ばれる層の若手を対象としたアンケート結果をベースに、グループワークを行いながら、若手職員への育成、関わり方について各々の立場からの意見交換を行いました。アンケートの結果には育成側からすると背筋が冷たくなるようなものもありましたが、それ以上に保育や子どもに対する前向きな若手職員の声や想いもありました。それらを真摯に受け止め、明日から若手に対してどのように接するべきかを考えるきっかけにもなったという意見もいただきました。分科会を通じて明確な答えが出たわけではありませんが、若手職員への理解を深めることで、今まで見えていなかったもの、育成側としての取り組み、関わり方の可能性の多くに気づくことが出来たのではないのでしょうか。

人材育成プロジェクトサブリーダー／盆子原 拓



2024年度
開催予定

第65回島根県保育研究大会 in 雲南

飯南町、奥出雲町、雲南市の3市町からなる雲南保育協議会。現在、大会に向かって準備中です！古くからヤマタノオロチ伝説など、歴史と文化そして神話に彩られたこの地が秘めたパワーの中で、様々なイマジネーションを広げていただけたらと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



令和5年度 隠岐地区研修会

10/14(土) 隠岐の島町総合体育館にて4年ぶりに隠岐地区研修会を行いました。

38名の皆さんにご参加いただきました。

今回は「幼児体育」について実践形式の研修会を開催しました。

講師は浜田市保育連盟 おぐに保育園 園長 山崎央輝先生です。

幼児期の運動は子どもたちが遊びながら身体を動かし、基本的な運動能力を発達させるための教育アプローチです。

保育者や保護者は遊びを通して学びや体験の機会を提供し、自由な運動から健康的な生活習慣を身につけるための準備をします。

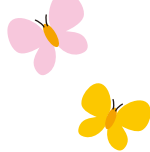
山崎先生は「鬼ごっこ」にはそのすべての要素が詰まっているとお話してくださいました。

ジャンケンや実技を通して考え、集団の中での自分の役割を見つける。人との交わり方を覚える。そして、自主性を育むなど、たくさんの可能性を広げるのだと伝えて下さいました。

山崎先生は、隠岐地区の皆さんと研修時間を最大限に活用して下さい、アクティブな一面も…(先生の後ろを追いかけている園児の姿が見えるような錯覚を覚えました。)

参加者の皆さんからは、童心に戻って鬼ごっこを楽しんだけれど、ハードすぎて筋肉痛になりそう…なんて声もチラホラ。

隠岐地区の皆さんの温かさに触れ、毎年研修会を行いたい！と強く思う時間を過ごしました。



令和6年度大会・研修会について

島根県保育協議会主催の令和6年度大会・研修会予定と島根県福祉人材センター主催の令和6年度福祉従事者研修・保育関連研修予定につきましては同封した別紙または島根県保育協議会HPをご覧ください。

編集
後記

第64回島根県保育研究大会が10月に益田市で行われました。4年振りにコロナ前と同じく、参加者全員が益田グラントウに集まり【出雲】【雲南】【江津】の研究発表、肥後先生の全体講評、午後は分科会、大豆生田先生の記念講演と丸一日をかけて充実した県大会となりました。コロナを経験したことで、それまで当たり前だったが、そうでないことに気づきました。研修会のあり方も選択肢が増えて、その時の状況や都合に合わせて選べるようになりました。コロナを経験し学習したことで良かった事は活かしながら、これからも学びを深めていきたいと思いました。

令和6年度大会・研修会予定(島根県保育協議会)

大会・研修会名	開催日	開催地・開催方法	講師
総会	6月27日(木)	松江市「くにびきメッセ」	株式会社アソビジ 代表 中川綾氏
新任職員研修会	7月18日(木)	松江市 「いきいきプラザ島根」	あすなる第2保育園 園長 竹内寛和氏
保育士・保育教諭スキルアップ 研修会	7月25日(木)	松江市 「いきいきプラザ島根」	島根県幼児教育センター教育指導課 指導主事 川上洋子氏
食育推進研修会	8月24日(土)	出雲市「ビッグハート」	皇學館大学 教授 駒田聡子氏
主任保育士・ 主幹保育教諭研修会	8月28日(水)	出雲市 「ニューウェルシティ出雲」	非営利団体コドモノミカタ代表 井桁容子氏 乳幼児教育実践研究家
隠岐地区研修会	9月までに	調整中	調整中
施設長研修会	11月29日(金)	出雲市「パルメイト出雲」	(社)あおぞら あおぞら谷津保育園 園長 芳尾寛子氏
保育者研修会	1月31日(金)	出雲市「朱鷺会館」	NPO法人福祉広場 理事長 池添素氏
保育施設経営セミナー (経営協議課題別セミナー)	調整中	調整中	調整中
第65回島根県保育研究大会	11月2日(土)	雲南市「三刀屋町文化体育館アスバル」	福島大学 人間発達文化学類 教授 大宮勇雄氏
第69回中国地区保育研究大会	7月11日(木)～12日(金)	鳥取県 鳥取市	
第67回全国保育研究大会		奈良県	

令和6年度福祉従事者研修・保育関連研修予定(島根県福祉人材センター)

研修会名	会場	開催日	講師
保育士等キャリアアップ研修 【幼児教育】	浜田	7/8(月)～10(水)	島根県立大学保育教育学科 小山優子氏 矢島毅昌氏 島根県教育庁幼児教育センター 講師
	松江	9/2(月)～4(水)	
保育士等キャリアアップ研修 【乳児保育】	—	5～6月頃(予定)	eラーニング研修
保育士等キャリアアップ研修 【保護者支援・子育て支援】	—	5～6月頃(予定)	eラーニング研修
保育士等キャリアアップ研修 【障がい児保育】	浜田	8/5(月)～7(水)	島根大学大学院教育学研究科〔教職大学院〕原広治氏 大阪健康福祉短期大学保育幼児教育学科 舟越美幸氏 出雲市立直江保育所 所長 江角祥子氏
	出雲	8/20(火)～22(木)	
	松江	9/24(火)～26(木)	
保育士等キャリアアップ研修 【保育実践】	浜田	9/2(月)～4(水)	NPO法人あしぶえ 有田美由樹氏 田中小百合氏 島根県立大学松江キャンパス 矢島毅昌氏 岩田裕子氏 松江市こども政策課 福頼美恵子氏 秦昌子氏 浜田市幼児教育センター 長尾佳保氏
	松江	11/20(水)～22(金)	
保育士等キャリアアップ研修 【保健衛生・安全対策】	出雲	10/7(月)～9日(水)	島根県立大学松江キャンパス 前林英貴氏 日本赤十字社島根県支部 指導員
	松江	10/29(火)～31日(木)	
	浜田	11/19(火)～21日(木)	
新任保育士・保育教諭研修	浜田	10/28(月)～30日(水)	女性ライフサイクル研究所フェリアン 津村薫氏 森崎和代氏 島根県教育庁幼児教育センター 講師
	松江	12/2(月)～4日(水)	
保育士等キャリアアップ研修 【食育・アレルギー対応】	—	1～2月頃(予定)	eラーニング研修
保育士等キャリアアップ研修 【マネジメント】	—	1～2月頃(予定)	eラーニング研修